

令和5年度第2回北区地域公共交通会議
議事要旨（案）

◇ 日時

令和6年3月27日（水）午後3時から

◇ 場所

北区役所別館2階研修室

◇ 会議次第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 委員紹介

4. デマンド型交通実証運行の実施

5. 報告事項

デマンド型交通実証運行の運賃

6. 閉会

◇ 出席委員

22名（敬称略・順不同）

会長 久保田 尚

委員 大前 孝太郎（代理：杉山 徳卓）、小松 栄美子、三好 常枝、
若田 瑞穂、鈴木 健史（代理：関根 寛人）、
佐藤 智彦（代理：藤田 有貴）、關田 和弘、木原 光資、
地宗 知子、小池 毅、志村 雅貴、久我 恒夫、
鎌塚 俊充（代理：関口 達也）、竹内 紀、時任 一郎、
橋本 孝、藤野 浩史（代理：倉林 巧）、松田 秀行、
寺田 雅夫、岩本 憲文

事務局 交通事業担当課

議事内容

1. 開会

- 事務局より開会宣言

2. 会長挨拶

- 会長より挨拶

3. 委員紹介

- 事務局より委員紹介

4. 議 題

- 質疑応答

デマンド型交通実証運行の実施について

（委員）

観光に関する視点が不足しているが、エリアの拡大により、観光に活用可能と考える。また、実施に際し、プロモーションが運行計画にない。予算措置の段階から PR の観点を含め、戦略的に進めるべき。単純な情報発信のみでなく、ターゲティングし、情報を発信することを考えていただきたい。

（事務局）

資料では本運行計画の基本的な事業許可申請に必要な部分について説明しており、対外的な利用促進の PR に関しては、今後、検討するが、事前の利用登録を不要としているなど、他地区とは異なる利用方法を採用しており、自由度の高い利用を可能としている。

今回、本事業のミーティングポイントを設定するにあたり、エリア選定の目的として、交通機能の向上が必要な地域を対象とすることに加え、エリア内に充足していない施設等については、アンケート調査結果の内容を踏まえ、需要が見込まれる箇所をポイントとしている。一方で他地区からの来街者誘導を目的とする施設の選定や提案が課題であることを踏まえ PR の取組及び検討を進めていきたい。

（会長）

重要なポイントである。是非、ご検討いただきたい。

（会長）

資料4のP7に記載のある最大運行本数の考え方について、詳細を説明していただきたい。

（事務局）

運行時間が 7 時間であり、運行エリア内最大運行距離が約 2 km であることから、1 回の運行に約 30 分要する。常時運行した場合を想定し、14 本程度としている。

（会長）

常時稼働している状況を目標としているのか。

（事務局）

実態としては、最大運行距離の利用のみではなく、1 運行 15 分程度の短距離利用による余裕も含めて、最大値としての運行回数を算出している。

（委員）

今の話に関連するが、目標値の設定にはどのようなデータを活用したのか気がかりである。今後はデータベース、データドリブンのような形式が行政の中で非常に重要になると考えている。どのようなデータをエビデンスとして採用し設定したのか説明していただきたい。

（事務局）

最大本数の算出について、本来であれば、アンケート調査の需要予測から車両台数及び運行本数等を決定すべきと認識しているが、本事業は実証運行のため、まずは 1 台で試験的に開始するという考えのもと、先の数字を算出している

合わせて、タクシーの個別補助とは異なる事業性質を持たせるために、乗合率を用いている。数値の設定にあたっては、都内、23 区内にて実施しているデマンド型交通実証運行の数値を参考とし、平均値より高い数値を目標の算出に使用した。

（委員）

高い数値を使用する必要があるか。先ほどのプロモーションの話も含め、高い数値設定の目標を達成するには、手法の検討がない。目標のみ高く設定するのはいかなものか。事業持続性の前提がなく、故意に高い目標を設定し、未達であれば、路線を廃止するという見方をされる恐れもある。

社会実験は目標値が高くなってもいい。仮に高くするならば、プロモーションとして、情報伝達の仕組みを構築した上で、利便性を考慮することで利用率が向上すると考える。

（委員）

委員の仰る通りであり、目標値は高いが、目標として達成していきたいと考えている。根拠とし正確な数値を見出すのは、北区の場合、難しい面もあるが、実施するのであれば、地域住民のために可能な限り社会貢献を行うために、数字を最大目標としており、少なくとも我々事業者は目標を高く持ってくる、これは当然のことと考える。

また、プロモーションの件については、事業継続のために実施したいと考える。

（事務局）

先ほど、ご説明した通り、23区内で実施している実証運行の数字を参照すると、概ね1.1から1.5という実績値があり、様々な条件を勘案し、ある程度高く、現実的な目標として1.2を採用した次第である。

（委員）

高い目標を持つことは事業者側としては非常に良いと考えるが、資料4のP8に記載の3つの達成基準には全目標に未達時には、路線休廃止とダイレクトな記載があることに違和感を覚える。社会実験は成功しない場合も当然あり、そこから改善策を講じていくことが重要。結果として、目標未達であった場合に廃止手続きをすぐに検討すると読めることが不安である。

（会長）

本事業のようなタクシーとは異なる新しいスキームを導入するため、プロモーションの方法も含め、前向きな形で、継続を前提として実施していただきたい。

（委員）

資料4のP9のスケジュールについて、アンケート調査の実施時期を詳細に説明していただきたい。合わせて、事業継続の可否を決定する時期についても説明していただきたい。

（事務局）

利用状況によっては、一定数の回答を得るためには想定よりも時間を要する可能性もあるが、アンケート調査は概ね8月中の取りまとめを予定している。ただし、運行期間中は様々な意見を聞き、改良検討するという意味合いにおいても、アンケート調査のみではなく、様々な形で利用者の意見を聞いていきたいと考えている。

（委員）

アンケート調査の経過報告はあるが、運行継続の可否については、事業の最終実績を持って判断するということでよいか。

（事務局）

その通りである。

（会長）

実証運行期間中には、利用改善を目的として運行計画を変更する可能性もあるため、8月に1度きりのアンケート調査のみで基準達成を判断するのではなく、やれることを全てやったうえで、トータルで考えるという方法もある。

（事務局）

アンケート調査結果から運行計画を年度途中に変更することは想定している。運行継続の判断についても、ご提案いただいた内容を踏まえ、検討する。

（委員）

社会実験は何度も実施した経験から意見を述べるが、アンケート調査の聞き方というのは非常に重要であると考えている。どのような設問を設けることを想定しているのかご説明いただきたい。

（事務局）

本運行計画の作成にあたり、地元組織が自主的に実施したアンケート調査票があり、基本的にはこれがベースになると考えている。ただし、より多くの利用者層に回答していただけのような設問を設けるなど、幅広い意見を聞きたいと考えている。

5. 報告事項

- ・質疑なし

6. 閉会

- ・事務局より、閉会宣言

以上